

滋賀県野洲市小南水害履歴マップ② 1959(昭和34)年8月14日(台風7号)・9月26～27日(伊勢湾台風)

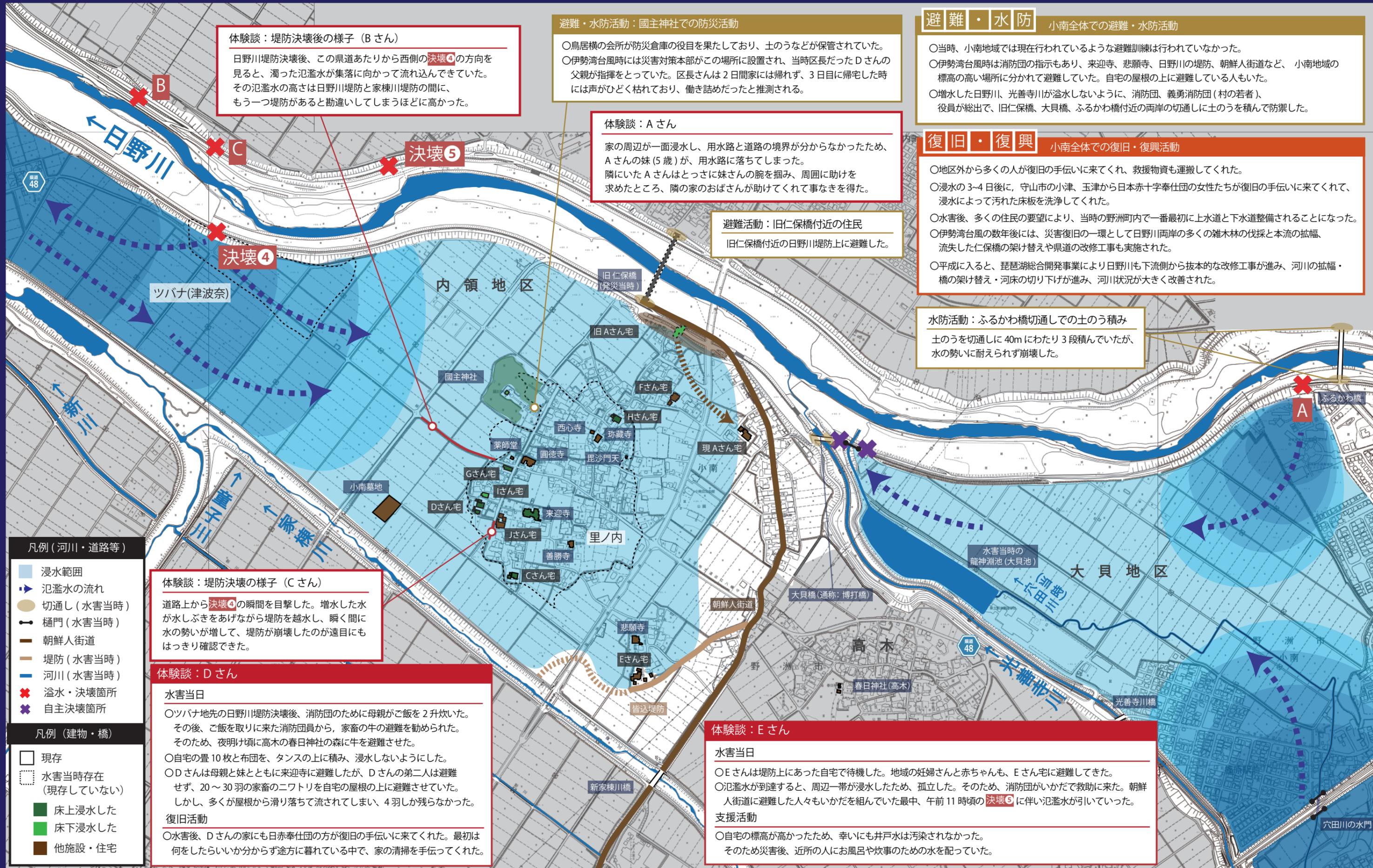
■ 当時小南に居住していた方々の体験談(一部抜粋) ■ 避難・水防活動 ■ 復旧・復興活動

0m 100m 200m

2022(令和4)年11月16日、2022(令和4)年12月20日の小南自治会館での聞き取り調査に基づき作成

※小南の情報のみ掲載、近江八幡市側の浸水範囲は未確認のため、描画しない。

作成 関西大学 景観研究室(野洲市都市計画地図上に加筆)



体験談：堤防決壊後の様子 (Bさん)
 日野川堤防決壊後、この県道あたりから西側の**決壊4**の方向を見ると、濁った氾濫水が集落に向かって流れ込んできた。その氾濫水の高さは日野川堤防と家棟川堤防の間に、もう一つ堤防があると勘違いしてしまうほどに高かった。

避難・水防活動：國主神社での防災活動
 ○鳥居横の会所が防災倉庫の役目を果たしており、土のうなどが保管されていた。
 ○伊勢湾台風時には災害対策本部がこの場所に設置され、当時区長だったDさんの父親が指揮をとっていた。区長さんは2日間家には帰らず、3日目に帰宅した時には声がひどく枯れており、働き詰めだったと推測される。

避難・水防 小南全体での避難・水防活動
 ○当時、小南地域では現在行われているような避難訓練は行われていなかった。
 ○伊勢湾台風時は消防団の指示もあり、来迎寺、悲願寺、日野川の堤防、朝鮮人街道など、小南地域の標高の高い場所に分かれて避難していた。自宅の屋根の上に避難している人もいた。
 ○増水した日野川、光善寺川が溢水しないように、消防団、義勇消防団(村の若者)、役員が総出で、旧仁保橋、大貝橋、ふるかわ橋付近の両岸の切通しに土のうを積んで防壁した。

体験談：Aさん
 家の周辺が一面浸水し、用水路と道路の境界が分からなかったため、Aさんの妹(5歳)が、用水路に落ちてしまった。隣にいたAさんはとっさに妹さんの腕を掴み、周囲に助けを求めたところ、隣の家のおばさんが助けてくれて事なきを得た。

復旧・復興 小南全体での復旧・復興活動
 ○地区外から多くの人が復旧の手伝いに来てくれ、救援物資も運搬してくれた。
 ○浸水の3~4日後に、守山市の小津、玉津から日本赤十字奉仕団の女性たちが復旧の手伝いに来てくれて、浸水によって汚れた床板を洗浄してくれた。
 ○水害後、多くの住民の要望により、当時の野洲町内で一番最初に上水道と下水道整備されることになった。
 ○伊勢湾台風の数年後には、災害復旧の一環として日野川兩岸の多くの雑木林の伐採と本流の拡幅、流失した仁保橋の架け替えや県道の改修工事も実施された。
 ○平成に入ると、琵琶湖総合開発事業により日野川も下流側から抜本的な改修工事が進み、河川の拡幅・橋の架け替え・河床の切り下げが進み、河川状況が大きく改善された。

避難活動：旧仁保橋付近の住民
 旧仁保橋付近の日野川堤防上に避難した。

水防活動：ふるかわ橋切通しでの土のう積み
 土のうを切通しに40mにわたり3段積んでいたが、水の勢いに耐えられず崩壊した。

体験談：堤防決壊の様子 (Cさん)
 道路上から**決壊4**の瞬間を目撃した。増水した水が水しぶきをあげながら堤防を越え、瞬間に水の勢いが増して、堤防が崩壊したのが遠目にもはっきり確認できた。

体験談：Dさん
水害当日
 ○ツバナ地先の日野川堤防決壊後、消防団のために母親がご飯を2升炊いた。その後、ご飯を取りに来た消防団員から、家畜の牛の避難を勧められた。そのため、夜明け頃に高木の春日神社の森に牛を避難させた。
 ○自宅の畳10枚と布団を、タンスの上に積み、浸水しないようにした。
 ○Dさんは母親と妹とともに来迎寺に避難したが、Dさんの弟二人は避難せず、20~30羽の家畜のニワトリを自宅の屋根の上に避難させていた。しかし、多くが屋根から滑り落ちて流されてしまい、4羽しか残らなかった。
復旧活動
 ○水害後、Dさんの家にも日赤奉仕団の方が復旧の手伝いに来てくれた。最初は何をしていいかわからず途方に暮れている中で、家の清掃を手伝ってくれた。

体験談：Eさん
水害当日
 ○Eさんは堤防上にあった自宅で待機した。地域の妊婦さんと赤ちゃんも、Eさん宅に避難してきた。
 ○氾濫水が到達すると、周辺一帯が浸水したため、孤立した。そのため、消防団がいかだで救助に来た。朝鮮人街道に避難した人々もいかだを組んでいた最中、午前11時頃の**決壊6**に伴い氾濫水が引いていった。
支援活動
 ○自宅の標高が高かったため、幸いにも井戸水は汚染されなかった。そのため災害後、近所の人にお風呂や炊事のための水を配っていた。

- 凡例 (河川・道路等)**
- 浸水範囲
 - 氾濫水の流れ
 - 切通し(水害当時)
 - 樋門(水害当時)
 - 朝鮮人街道
 - 堤防(水害当時)
 - 河川(水害当時)
 - 溢水・決壊箇所
 - 自主決壊箇所
- 凡例 (建物・橋)**
- 現存
 - 水害当時存在(現存していない)
 - 床上浸水した
 - 床下浸水した
 - 他施設・住宅